



特集

桑名から世界へ！

江戸時代から続く伝統芸能「伊勢大神楽」

江戸時代からお伊勢参りの旅の歴史とにぎわいを今に伝える「伊勢大神楽」。
世界に誇る、桑名発祥の伝統芸能の歴史や魅力を紹介します。

問 この記事については秘書広報課（☎24-1492 FAX24-1119）

伝統と福を届け全国を巡る桑名発祥の重要無形民俗文化財

伊勢大神楽は、厄祓いをして幸福を招来する獅子舞と、皿回しや水芸など伝統的な曲芸・放下芸（ほうかげい）を演じ、全国を巡行する桑名市太夫発祥の民俗芸能です。江戸時代、お伊勢参りへ行けない庶民のために、神札と共に旅のにぎわいや娯楽を届けたことに由来します。山本勘太夫社中（やまもとかんだゆうしゃちゅう）をはじめとする五家の社中がその優れた技を受け継いでおり、国の重要無形民俗文化財にも指定。４５０年の時を超えた今もなお、人々の暮らしに寄り添いながら、伝統と福を届け続けています。

「神楽」がユネスコ無形文化遺産代表一覧記載候補に提案されました！



「伊勢大神楽」を含む全国43件の「神楽」が、ユネスコ無形文化遺産代表一覧記載候補として提案されました。令和10年12月ごろの政府間委員会で審議が行われ、記載の可否が決定する見通しです。大切に守り継がれてきた地域の誇りが、今まさに世界へと羽ばたこうとしています。みんなで一緒に盛り上げていきましょう。

広報 くわな
KUWANA

目次 contents

02 キラリ★くわな人
03 特集 桑名から世界へ！江戸時代から続く伝統芸能「伊勢大神楽」
06 学校再編通信 vol.4
08 桑名市健康マイレージ事業に参加してみよう！
09 こころとカラダを大切に 女性が自分らしく輝くまち 姿勢と呼吸を整えるピラティス習慣
10 桑名市総合医療センター通信、くわな防災教室
11 耳より情報、みんなの掲示板
12 EVENT ALBUM（イベントアルバム）
13 くわなINFO
22 無料相談
23 My KuWanna パートナーズ 市長まちなか探索
24 私の推しショット

今月の表紙

「子どもの夢・未来創造事業」の一環として、市内の小学校で山本勘太夫社中による伊勢大神楽が披露されました。身近で触れる伝統芸能に子どもたちは釘付けでした。



キラリ★くわな人



弓道選手兼指導者
多湖 賢治（けんじ） さん

高校入学後に部活紹介を見て「面白そうだ」と興味を持ち弓道を始めた多湖さん。現在は三重県弓道連盟桑名支部や桑名市スポーツ協会の桑名弓道協会に所属し、地元での稽古をはじめ地域の弓道振興や後進の指導に精力的に活動されています。

33歳での初出場から15回目（14回目の決勝進出）の挑戦となった今回の第77回全日本男子弓道選手権大会（天皇盃）で、悲願の初優勝を果たしました。過去に病気や首のヘルニアで弓が引けない苦しい時期もありましたが、筋力に頼る射から基本に忠実で無心・自然体の射へとスタイルを見直し、周囲の温かい励ましに支えられて快挙を達成。「念願が叶い、感無量で涙が止まりませんでした」と喜びを振り返り、優勝後は、全国から届いたたくさんのメールや手紙に胸を熱くしたそうです。

幼少期に桑部地区で体験したお月見どろぼうの思い出や、毎年心待ちにする石取祭など地元桑名への愛着を胸に、弓道を通じて全国に年齢や性別を超えた多くの仲間ができたことを「人生を豊かにする宝物」として大切にしています。

「今後は全日本選手権での連覇や、立ち振る舞いの美しさを称える最高得点賞をめざします。また国民スポーツ大会の強化部長兼成年男子監督として日本一になれる選手を育成し、指導者としてさらに成長したいです」と語る多湖さん。

次なる目標へ向け、挑戦は続きます。



大会の様子

伊勢大神楽の見どころ 1

8獅子舞・8曲芸でよみがえるお伊勢参りの物語

伊勢大神楽の最大の魅力は、獅子舞と曲芸が融合し、独特の芸能として確立されている点です。年末に根拠地である増田神社で開催される総舞では、全16演目でお伊勢参りの物語をリアルに表現。祈祷を意味する神楽から始まり、神話に紐づく演目や、旅路を表すにぎやかな演目を経て、最後は伊勢音頭で締めくくられます。また、曲芸の間に繰り広げられる、チャリと呼ばれる道化師と放下師による絶妙な掛け合い「萬歳」は、現代の漫才の原型と言われる見どころの一つ。神事でありながら唯一無二の総合芸術として、江戸時代から変わらぬ旅の情景を体感させてくれます。



天狗や獅子が邪気や悪魔を払う神事舞「四方の舞」。



「漫才」の原型と言われる、チャリと放下師によるユニークな掛け合い。


伊勢大神楽の総舞（そうまい）の最後を飾る、花魁道中（おいらんどうちゅう）を模した放下芸。

伊勢大神楽の見どころ 2

暮らしに寄り添い成長し続ける生きた文化遺産

「旅する獅子舞」と称される伊勢大神楽は、主に西日本などを1年かけて巡り、各戸の玄関先や境内で獅子舞や曲芸を披露します。観客との距離が近く、山本勘太夫社中代表で大神楽師の山本勘太夫さんは「舞台と日常が地続きで、地域と一緒に育まれてきた」と語ります。山本さんは令和4年に一般社団法人伊勢大神楽講社を設立。世襲制を脱して免許制度を導入し、全国の若き担い手が技を継承できる形を整えました。伝統の保存に留まらず、未来や世界へ向かって成長し続ける、まさに生きた文化遺産なのです。


1年をかけて各地を巡行。人々の暮らしと一体となり伝統芸能を披露します。



公演スケジュールなどはこちらから 伊勢大神楽講社


伊勢大神楽の家元・山本勘太夫社中の皆さん。

子どもの夢・未来創造事業の取り組みで小学校で伊勢大神楽が披露されました

子どもたちの将来の選択肢を広げるため令和7年度に始まった「子どもの夢・未来創造事業」。小・中学校や学童などを対象に、さまざまな体験機会の拡充を図る取り組みです。9月17日には市内の小学校で、山本勘太夫社中による授業を実施。「伊勢大神楽」の一部が披露され、地元の伝統芸能に触れる機会となりました。授業を終えた山本勘太夫さんは「我々は桑名から離れていることが多いですが、他の街でもずっと桑名の伊勢大神楽であり続けてきました。これを機会に、伊勢大神楽を身近に感じてほしいです」と子どもたちにメッセージを送りました。


迫力満点の演舞に目を輝かせる小学生たち。



演舞を鑑賞した後は大神楽師に感想を伝えたり質問をしたりしました。


無病息災や健やかな日々のご利益を祈り、獅子に頭を噛んでもらう子どもたち。

12月24日は大神楽師が桑名に集結 伊勢大神楽の総舞が開催

毎年12月24日、全国各地を巡回していた神楽師たちが一年の旅を終え、発祥の地である桑名市太夫の増田神社へ帰還します。当日は、普段は別々に全国を巡る社中・神楽師たちが一堂に集結。社中の垣根を越えた豪華な共演や、大勢で舞う迫力ある技の数々を鑑賞できる年に一度の貴重な機会です。桑名が誇る伝統の熱気が境内を包み込みます。




開催日 12/24(木)
開催場所 増田神社境内（太夫155）
料金 無料　申込 不要
問 一般社団法人 伊勢大神楽講社 ☎ 73-2788　観光課 ☎ 24-1361

国立民族学博物館 映像民族誌
「それでも獅子は旅を続ける
～山本源太夫社中 伊勢大神楽日誌～」上映会開催

日時 12/26(土) 13:30～15:00（開場13:00）
場所 くわなメディアライヴ 1階 多目的ホール
講師 神野知恵氏（岩手大学准教授）
定員 100人（要事前申し込み）
詳細・申込

